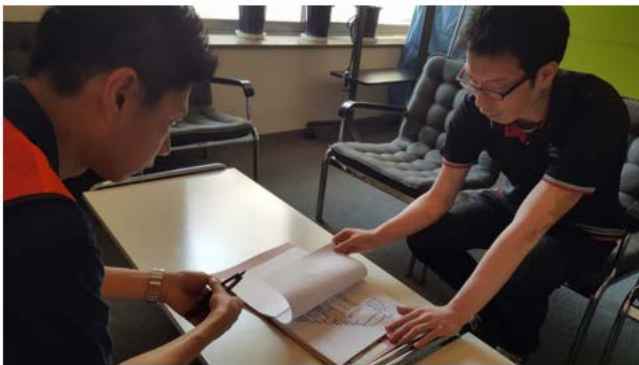


## 熊本地震被災地において「地震と津波の被害関数」に関する現地調査を実施しました (2017/7/22-23)

場所：熊本県市街地，益城町，宇土市  
テーマ：2016年熊本地震

平成 29年7月22-23日に日本学術振興会の二国間交流事業・共同研究（日タイ）による「日本とタイにおける地震と津波の被害関数に基づくタイの新しい建物設計方針の提案」というテーマにおいて，昨年発生した熊本地震の被災地で調査を実施しました．日本側は当研究所の今村文彦所長とサッパシー・アナワット准教授（代表者）（災害リスク研究部門）が，タイ側はマヒドン大学の Teraphan Ornthammarath 助教（代表者）がメンバーとして参加しています．今回の地震被害調査では，サッパシー准教授と Teraphan 助教が熊本県を中心に熊本市街地，益城町，宇土市で現在の建物被害と修理状況を調査してきました．益城町では大きな建物被害の様子はほとんど確認することができませでしたが，鉄筋コンクリート造の益城町文化会館と益城町総合体育館以外では，主に木造住宅の被害状況及び修理方法を確認することができました．熊本市街地では，現在もまだ主に鉄筋コンクリート造の構造ビルの被害状況や修理過程を確認することができました．また熊本港フェリーターミナル施設（鉄骨造）の被害を確認した他，益城町の地震観測施設及び計測震度計と旧宇土市役所内にある強度観測施設などを視察しました．今回の調査結果，地震被害の判定，各年代の建物設計基準による建物のパフォーマンス，建物の修理方法等に関する情報は，これからタイの建物に適用する際に非常に参考になると思われます．



益城町文化会館でのヒアリング調査の様子



旧宇土市役所内にある強度観測施設



益城町文化会館の被害様子



熊本港フェリーターミナル施設の被害様子